

## 第11回 寝屋川市総合計画審議会会議録

### 1 日時

令和2年10月27日（火）午前10時～午前10時38分

### 2 場所

議会棟4階 第1委員会室

### 3 出席者

（委員）※ 50音順

井川 晃一、池添 義春、内田 憲幸、金子 英生、郡 美博、小西 雅晴、  
佐藤 忍、下川 隆夫、田中 英子、谷本 雅洋、田村 匡、辻岡 喜久雄、  
中川 幾郎、中川 健、中川 芳行、平田 陽子、柳瀬 昇士、吉原 起人  
18人（全24人）

（事務局）

杉本部長、木場次長、西村課長、辻係長、高島係長、田中、森崎

### 4 傍聴の可否

可（傍聴者1人）

### 5 議事

- ・ 第六次寝屋川市総合計画最終答申（案）の検討

(会長)

それでは定刻となりましたので、始めさせていただきます。

皆さん、おはようございます。

本日公私何かと御多忙のところ御出席賜りまして、誠にありがとうございます。

ただいま委員さん 24 人のうち、18 人の御出席をいただいております。

したがいまして、寝屋川市総合計画審議会規則第 5 条第 2 項の規定によりまして、本日の会議は成立しておりますので、これより第 11 回寝屋川市総合計画審議会を開催させていただきます。

それでは早速本日の議題に入ります。

前回の第 10 回審議会では、最終答申案について、御審議いただきました。そのうち計画本体の最終答申については、特に修正等の御意見ございませんでしたので、前回審議会で配布させていただいた内容で、確定させていただいております。

本日は、附帯意見に関して、様々御意見をその際頂戴しましたので、その修正案について御審議いただき、附帯意見の内容を固めるというふうにしてまいりたいと思います。

それでは始めに、事務局さんから配布資料の説明を受けたいと思います。

どうぞよろしくをお願いします。

(事務局)

では、本日お手元に配布させていただいている資料、4 点ございます。

まず、「資料 1 第 10 回審議会における最終答申附帯意見（案）に対する委員意見」。こちらにつきましては、前回審議会での附帯意見案に係る御意見の趣旨、要旨をまとめた一覧となっております。

次に、資料の 2、こちらにつきましては、最終答申附帯意見の修正案でございまして、前回審議会での御意見を踏まえた修正箇所を見え消しで色塗りをさしていただいて、表示させていただいております。

次に、資料 3 につきましては、修正箇所を本文に溶け込ました附帯意見の最終案となっております。

最後に、参考資料ございます。「第六次寝屋川市総合計用語解説（案）抜粋」こちらにつきましては、前回審議会におきまして、「望まない残業」の意味について、御質問いただき、用語解説に追加させていただくことになりましたので、参考までに配布をさせていただいたものでございます。

資料については以上でございます。

（会長）

それでは、最終答申の附帯意見、これの修正案について、集中的に審議したいと思います。

事務局さんから、御説明をお願いします。

（事務局）

それでは、お手元の資料、右肩「資料1」と書かれた「第10回審議会における最終答申附帯意見（案）に対する委員意見」、こちらの資料と、資料の2の附帯意見の修正案の見え消し版、こちらの二つの資料を併せて御覧いただきたいと思います。

まず資料1の一番上のNo.1、こちら御覧ください。附帯意見案の「1 総括的事項 (1) 第六次総合計画の着実な推進」の文章中、「本格的な人口減少社会を迎え、今後少子高齢化が更に進行することが見込まれる」について、「『見込まれる』ではなく、『明らかである』と断定してもよいのではないか」との御意見をいただきました。

資料2の修正案、こちらの1ページ、資料2の1ページの中頃の色塗りの箇所を御覧ください。御意見を踏まえまして、「見込まれる」という文言を「明らかであり」と修正しております。当該修正を溶け込ませた文章を読み上げさせていただきます。

「本格的な人口減少社会を迎え、今後少子高齢化が更に進行することは明らかであり、これに伴う影響は福祉や医療を始め、経済・教育・都市インフラなど、様々な分野に及ぶこととなる」としております。

続きまして、資料1にお戻りください。こちらのNo.2及び3を御覧ください。附帯意見（案）の「2 個別事項 (1) 訴求力のある施策 ③命を全

力で守り、豊かなくらしを実現する（安全・安心）」の文章中、「発災時には、地域住民による初期活動など自助の取組が重要となることから、地域における自発的な防災活動を推進するため、地区防災計画の策定支援に積極的に取り組まれない。」の文章について、「自助を育てるためには、公助による積極的な支援が必要となることから、公助の関わりについて、書き加えるべきではないか」との御意見をいただきました。また、「地区防災計画は、自助共助により、地域防災力を強化するための計画であるため、自助だけではなく共助を加えるべきではないか」との御意見をいただきました。

資料2の修正案の2ページ、こちらの一番下の行の色塗りの箇所を御覧ください。御意見を踏まえまして、「行政による救助・支援などの公助の取組に加えて」という文章を追記しております。また、3ページを御覧ください。一番上の色塗りの箇所でございますが、「共助の取組がより重要となる」と追記しております。

2ページの下から3行目から、当該修正を溶け込ませた文章を読み上げさせていただきます。

「南海トラフ巨大地震を始めとする自然災害などの被害を最小限に抑えるべく、防災・減災対策を推進するとともに、発災時には行政による救助・支援などの公助の取組に加えて、地域住民による初期活動など、自助・共助の取組がより重要となることから、地域における自発的な防災活動を推進するため、地区防災計画の策定支援に積極的に取り組まれない。」としております。

資料1にお戻りください。No.4及び5、こちらを御覧ください。

附帯意見の「3 おわりに」の文章中、「子育て世代を誘引」という文言について、「定住人口の流入促進など、表現を改めたほうがよいのではないかと。また、『ターゲットを見据えた独自性、独創性の高い政策立案を進めることはもちろんのこと』のターゲットとは何かが分かりにくいと、表現を改めたほうがよいのではないかと」の御意見をいただきました。

資料2の修正案の4ページの色塗りの箇所を御覧ください。「子育て世代を誘引し」につきましては、「本市への移住・定住を促進し」と変更し、また、「極めて重要な課題であり」の「極めて」は削除しております。

次に、「ターゲットを見据えた」につきましては、「限られた財源の中で、施策の選択と集中を加速し」と改めております。

当該修正を溶け込ませた文章を読み上げさせていただきます。

「3 おわりに。将来にわたって行政サービス水準を維持、向上し、また、地域の活力を創出するために、本市への移住・定住を促進し、まちの持続可能性を高めていくことは、重要な課題であり視点であると考えている。

第六次総合計画で示す将来像を実現するため、限られた財源の中で施策の選択と集中を加速し、独自性・独創性の高い政策立案を進めることはもちろんのこと、福祉や教育、産業、環境など各分野の行政サービスをバランスよく実施し、総合的な都市力を高めていくことで、誰もが住みやすく安心して暮らせるまちづくりを推進されたい。」としております。

附帯意見の修正の説明につきましては、以上でございます。

(会長)

これにつきましては、前回の審議会ではその場での修正作業が非常にちょっと時間も掛かるし、コンセンサスを取るのが少し難しいなと思いましたので、頂きました御意見を基に事務局で原案を練っていただいて、大変恐縮でございますが、御発言のありました委員個々に、照会をしていただいて、原案を確定させたと。そういう次第でございますので、御承知おきください。

それではただいまの修正案につきまして、御異議ございませんでしょうか。

(「なし」と言う者あり)

(会長)

それでは修正御意見なしとのことですので、本日のこの案をもって、審議会の最終答申附帯意見とすることといたします。

それでは以上をもちまして、総合計画審議会の審議は全て終了といたしますが、最終答申書につきましては、11月5日に私と副会長が代表しまして、市長に答申をさせていただく予定となっておりますので、よろしく願いいたします。

なお、今日で一旦ピリオド打ちますので、大変恐縮でございますが、皆様方からお一言ずつ、今後の行政なり、その計画の実現に向けたメッセージと言いますか、エールを送っていただけたらと思います。

なお、時間の都合もございいますが、できたらおおむねお一人1分程度でお願いできたらと思います。すみません。

それでは名簿順でよろしいでしょうか。

大変恐縮でございますが、委員さんからよろしくお願いします。

(委員)

いろいろ皆さんの御指摘があったのと、後事務局の頑張りで、相当いいものができたと思います。

今回関わらせていただいて、時代がやはり大分変わってきて、菅総理大臣も言っておられます。共助みたいな話が大分出てきまして、今後そういう辺り、それを行政が担うのか、民間でやるのか、そういう問題が今後あるわけですけど、今でも既に地域協議会始め、民間で頑張っておられる方々、そういうことで、今回5年後、2025年なんていうのは一つの目標になっていますけど、更にその後を考えると、ますますこんな形で共助みたいな部分であるとか、行政との関わり、かなり地元の頑張りみたいなのがどうなっていくのか、非常に興味深く、また上手くいくように、皆さん、私たちも頑張っていかなきゃいけないなと思いました。

非常に勉強になりました、ありがとうございました。

(会長)

はい、ありがとうございます。

では委員。

(委員)

はい。長きにわたりまして、お世話になりました。

総合計画は最上位計画と言われまして、計画の中の計画といって過言ではございません。ですから庁内はもとより、市民の皆様とも共有をするもので

あるということだと思っております。

率直にお感じになったことや思われることを、種々この間御指摘をいただきまして、当初から作りが大きく変化してきたものと思います。当初の書きぶりは、ほんとに市が何でもやります。という書きぶりだったと思いますが、市民参画のもとで、一緒にやっていくという書きぶりに大きくシフトできたのではないかなと思います。

ここにお集まりの皆様は、地域をけん引する皆様の集まりだと思っておりますので、令和3年から7年間のこの計画を、今後もこれに照らして、市政を見つめていただきまして、見張っていただきまして、そして市政についてまた御意見を継続的にいただければと、このように思います。

ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。

では委員、どうぞ。

(委員)

皆様、お疲れさまでございました。私のほうは、部分になりますけれども、寝屋川市を運営する上において大事なのはやはり税収という、歳入部分ですね。これ施策の中で、未来へつなげる行財政運営ということで、本年度はコロナ禍ということで、委員の中でも、来年再来年と、法人市民税、市民税等々の減収が出てくる中で、行財政運営のかじ取りの難しさがこれから出ると思います。時代につなぐ財政運営、寝屋川市の働き方改革、スマート・ねやがわでAI・RPAのICT、実効性・効率性を重視した行政運営ですね。この辺りが一番要となっていくものではないかなというふうに思っています。

歳入をしっかりしないと、歳出、いわゆる市民の福祉、その他様々な行政が運営できなくなりますので、この中でしっかりと取り組んでいただければなと思っております。

ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。

委員さん、どうぞ。

(委員)

会長、副会長、また事務局の皆さんも大変にお疲れさまでした。

私も前任の委員から引き継ぎまして、途中から審議に入らせていただきました。非常に熱く盛り上がった審議会で、素のままで入ってきたものですからどうしようかなという思いもあったのですが。

この第六次総合計画っていうのは、間違いなく人口減少を迎えるこの寝屋川市にとって、非常に重要な計画と思っています。そういった意味で、守りの立地適正化計画、また攻めであります4駅構想、2軸化構想と言っていますが、これを軸に多くの市民の皆様が、様々満足して暮らせるような計画になったんじゃないかと思っております。

私も議員として、これからもしっかりとこの計画を基に、また途中で様々なことが、変化があれば、提案していきたいと思っております。

皆様、大変にありがとうございました。

(会長)

はい、ありがとうございます。

それでは委員さん、どうぞ。

(委員)

今回ほんとに様々な立場の方々から、様々な意見があったと思います。で、それに対して、事務局のほうでもほんとに真摯に対応していただけたかなと思っております。ありがとうございます。

ここに書かれているように、これから本格的な人口減少で、少子高齢化が進むという中で、寝屋川としてどう立ち向かっていくのか、どう生き残っていくのかということは、非常に重要だと思っております。

その中で、今回最上位計画の総合計画の審議会の一委員として参加できた



ことは、非常に光栄なことだと思っております。

で、附帯意見の中にありますように、地域課題に行政のみで対応していくことは困難であると言っておられるように、今後やはり行政のみではなく、議会はもとより、ここにありますが、市民、地域、更には市内の民間の事業者さんとほんとに協力して、この時代を乗り越えていかないといけないのかなと思っておりますので、そういった意味でも、今回参加させていただいて、意見述べさせていただいたことは、ほんとにありがたい経験だったと思います。ほんとにお疲れさまでした。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございます。

では委員さん。

(委員)

私のほうは7月からの参加となりましたので、何も分からない途中からの参加で、勝手なことを申し上げたかもしれません。事務局の方に御丁寧に受け答えをいただき、ありがとうございました。

産業の面からということ、定住人口の促進に加えて、働く場所として、寝屋川市内の事業者、今後人口減少が進んでいく中で、市内で働く場所もきっちりありますよ、というようなつながりを持っていただけるような、そういうまちになっていただいたら非常にありがたいなというふうに思います。

この7年間の総合計画の先に、豊かなまちになっていただきたいなど。金銭面とかそういう税収とか、そういうことだけではなく、人材が豊かであるとか、市民の心が豊かであるとか、いろんな豊かの表し方があると思うんですけども、そういう市になっていただけたら、非常に我々もこういう計画に参画させていただいて、ありがたいなというふうに、私は光栄に感じるところでございます。

短い間でしたけれども、ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。

それでは委員さん、どうぞ。

(委員)

私も同じく7月からこちらのほう担当させていただきました。ほとんどしゃべることなく、すごい意見が活発にされているな、というふうなことを感じるとともに、その意見を上手くまとめながら進められた会長、並びに副会長に改めてお礼を申し上げたいと思います。

また、それに上手く対応、上手くっていうたら語弊がありますね。真摯に対応されました事務局の方々にも、御苦労さまでしたというふうに感謝いたします。

これからなんですよ。この最上位方針が決まって、これからブレークしていく。そうしますと市政に反映されて、それを各御担当が実施していく。

我々民間企業でもそうなんですけど、各担当になると、ともすれば自分のことを優先することで、横串がどうしても図れないというのが、常々我々気にしていることでもあります。横串をまず刺していただいて、パフォーマンスを更に上げていただくということを、是非ともお願いしたいなというふうに思うのと同時に、この7月まで私も官民連携の組織に勤務しておりました。官と民で文化が違うというのを大変感じておりました、その文化の違いを越えて連携していく、そこに意味があるのかなというふうにも感じておりますので、いろんなところで陰ながら応援していきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

(会長)

ありがとうございます。

それでは委員さん、どうぞ。

(委員)

今回、この市の最上位計画である総合計画に、委員として入らせていただいて、地域の金融機関、枚方信用金庫の代表として、入らせていただいてあ

りがとうございます。私もこういう会議、初めてのことであったので、非常に難しかったですし、内容を理解するのに、理解し得ないうちに終わってしまったというのが現状でございます。

でも、私もいい経験をさせていただいて、ありがたく思っています。私も北河内7市で営業させていただいていますけど、こういう最上位計画の委員に入らせていただいたのは、寝屋川市さんが初めてかなというふうに、多分そうだろうと思います。

先ほどお話もありましたけれども、今後この最上位計画が、実際の施策、単年度のところです。子育てを誘引する施策に下りてきたときに、地域金融機関の一員として実際に動く立場として、我々も携わっていければというふうに思います。

ほんまに短い間ですけども、非常にいい勉強をさせていただいて、ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。

では委員さん、どうぞ。

(委員)

私は、初めて総合計画の審議会に、参加をさせていただきます。

特に私が感じたのは、文章の表現の大切さについて、これからは勉強をしていかなければならないなあ、このように感じました。

特に今回の計画の中で、地域福祉の課題も多く取り上げていただきました。これからは地域に帰って、市民の皆様と一緒に、地域福祉の向上に、一生懸命頑張っていきたいと、このように思っています。

本日は、この計画に参加をさせていただきまして、大変ありがとうございました。いい勉強になりました。

(会長)

ありがとうございます。

委員さん。

(委員)

この度は、こういう計画に参加させていただきまして、非常に私自身いいお勉強をさせていただきました。

しかしながら、地域でいろいろ長い間させていただいている、今担い手が、後がないのが今現状で、自分も心に苦しく思いながら、日々を過ごしているんですが、ほんとに時代流れていくうちに、どんどんいろいろなことが変わってきてまして、自分でもびっくりしながら、日々を過ごしております。この度のこの計画に当たりましては、非常に今後を見据えての皆さんに頑張ってくださいいい計画ができたんじゃないかなんかと思っております。

それと、この計画の中に入れていただきまして、我々高齢者にとっては非常に横文字が多かったり、非常に分かりにくいことがいっぱいあったんですけども、前もって資料をいただいたおかげで、いろいろなお勉強をさせていただきました。

これからこの資料を読むときに、若い人ばかりではなく、やっぱり高齢者も多い世の中ですので、用語の説明を入れていただいたということは、非常に良かったことやと思っております。今後を見据えて、いつまでできるか分かりませんが、元気な間はまた頑張っていこうと思っております。

ほんとにありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。

それでは委員さん、どうぞ。

(委員)

地域の代表として参加させていただきまして、全体の総合計画の中の内容的には、地域として取り組む、やれる役割言いますかね。そのところはほんとに私たち全体から見ると、小さなほんとに点ぐらいのものだなというふうに感じるとともに、地域、いわゆる創生と言いますかね。地域をもっともっ

と活躍させなあかんとおっしゃっておりますけれども、末端の中では、そういう地域離れ言いますかね。きずなが薄くなっていると。その辺のところの葛藤をしている、今回そう感じたところでございます。

先ほど委員さんもおっしゃいましたけれども、非常に用語が最終出てきましたけれども、報告で言いましたら、110 個ぐらいありますかね。ということで、なかなか文章そのものがやっぱりよう分からないと、中身もよく分かりづらいということで、辞書を引きながら、何かやっていたようなところがあつたんです。したがって、前もってこの辺のところの用語集が出ておつたら、なお我々も理解できたのかなと、そんなふうに思いますので、今後参考にさせていただいたらと思います。

どうもありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。

それでは委員さん、どうぞ。

(委員)

私も地域の代表で、参加いたしましたですけども、この総合計画での答申の中で、「子どもからシルバー世代まで誰もが安心して地域で暮らせるまちづくり」これが非常に大事ななと思っております。私も余命あと僅かなんですけれども、この寝屋川に住んでよかったなと、子どもやら孫にもそれが伝えられたらいいのかなと思っております。

その中でも特に、「子どもに最善を尽くす。」、この1行っていうか、文言が非常に大事ななと思っております。少子化少子化といわれて、こんなんいわれている昨今ですけども、例えば子どものことを大事にして、寝屋川に入っていけば子どものことが、っていうことがあれば、すぐには反映しないでしょうけれども、5年の間には十分少子化が、ある程度は解消できるんじゃないかなと思っております。

そんなことで、この5年間実現できれば、明るい寝屋川になるんじゃないかなと思っております。

(会長)

ありがとうございます。

それでは委員さん、どうぞ。

(委員)

これまでは、出来上がったものを、いわゆる計画にケチをつけていけばよかったですけれども、当事者になってみて、この大きな責任を、もうひしひしと実感した次第でございます。

それから会議が進むにつれ、地域のかつていうんですかね。地域への期待と言いますか。が、かなり大きなものになってきているということも実感しまして、責任も感じますし、やる気も出てきたような結果になりました。

とにかく、私もこういった委員会に初めて参加させていただいたんですけれども、皆様方の知力と言いますか、驚くことばかりで、大変勉強になりました。

最後に、委員の皆様と事務局の皆様方へ深く感謝を申し上げまして、御挨拶にしたいと思います。

ほんとにありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。

それでは次いきます。委員さん、お願いいたします。

(委員)

はい。私も地域、東校区代表で、この会に出ささせていただきました。この期間を通しまして、私自身が大変勉強になりました。寝屋川市の行政の活動、仕事、そういった面をたくさんこう勉強させていただく中で、やや我々の地域っていうか、住民と私自身そうですけども、行政との距離が縮まって、親近感が、市の行政との距離が短くなったような気がいたしております。いずれにしても、大変いい勉強になりました。

で、大事なことは、仏作って魂をも入れるということが、大事ではなからうかということで、今自問自答をしております。

最後に、口幅ったいようですけれども、これから先、これだけのたくさんの事業を推進していく中で、紆余曲折もあろうかと思えますけれども、大事なことは、住民目線でジャッジをしていくことが、重要かなと。そういった意味で、ここでおられる皆さん方も、皆さんそういう思いだと思いますけど、特にそういうことを感じましたので、口幅ったいようですけども一言申し上げさせていただいて、感想とさせていただきます。

本当に長い間、ありがとうございました。

(会長)

はい、ありがとうございます。

それでは委員さん、どうぞ。

(委員)

私個人的なことなんですけれども、高校を卒業して、京都へ出てきまして、そこで大学を出て就職をして、定年まで勤めました。定年後、寝屋川に来ました。実を言いますと、京都は古いまちで、あまり住みよいまちではないな、寝屋川のほうがずっといいなと、実は個人的には思っているところであります。

で、この会議に入りましたのも、もう終活を、80歳になりましたので、終活をしております中で、毎月じっくり読んでいる寝屋川市の広報の中に、一般公募の広告がございましたので、私死に土産に、お世話になっている寝屋川に最後の御奉公をしてみようかなと思って、申し込みましたところ、幸運にも採用していただきました。

そしてこの会に来まして、まずびっくりしまして。何とまあ熱心に、しかもいい意見が出て、こんなこと考えて寝屋川市やってはんのやなど。認識を新たにしまして、これ終活どころじゃないぞと思っているところです。

で、私以外の委員さんのおかげで、事務局の苦勞もあって、大変いい案が出ましたので、いや、素晴らしいなと思って、その一角に、名前を連ねさせ

てもらったことを、大変ありがたく思っているところですけども。

要は、物事は先ほどもございましたけれども、何ぼいい案を作っても、それが実現されなくては、いわゆる絵に描いた餅ではあってはいけませんから、これを実現するためには、いろんな人の協力が必要ですし、私もこれもう後何年か分かりませんが、寝屋川に協力して、この案を作った者の一人として、もっと頑張らないかなということをひしひしと感じ、反省をしているところです。

どうもありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。

それではお待たせしました。委員さん、どうぞ。

(委員)

今回初めてこういう立派な場というか、重要な審議会に参加させていただいたんですけども、市のことがどんなふうに進んでいくのかというのは、今まで想像もしたことがないまま、寝屋川市に住み続けていました。初めてこうやっていろんな方が積極的に意見を出して、事務局の方たちがそれをまとめ上げてという、こういう経緯を目の当たりにしたんですが、もう皆さんに頭が下がる思いで、いっぱいです。こういうことって市民がもっと知るべきだなと思いました。こういうことを知ることによって、きっと自分たちも参画したいとか、巻き込まれたいと思うチャンスがあるんじゃないかなと思います。そういう人が増えたら、きっと住み続けたい寝屋川市になるだろうし、私も今日この場にいることで、寝屋川市を好きになりました。そういう人が増えたらいいなという思いで、参加させていただきました。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。

では、ちょっとラストになりますが、副会長からも御挨拶を賜りたいと思



います。はい、どうぞ。

(副会長)

委員の皆様と事務局の皆様には、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

私、審議会いくつか出させてもらってはいるんですけども、学生にまちづくりの話を授業の中でするときに、住民参加とかいろんな立場の人の話を、話っていうか意見を聞いて、計画を立てていくことが大事なんですよってことを、授業としては話をしているんですけども、リアルにいろんな立場の方、それから地域の代表の方であったり、いろんな職場の方であったり、そういったそれぞれの皆様が、委員の皆様が抱えておられる意見と言いますか、課題をもって、この審議会に出てこられて、その意見を聞かせていただけるって、私ほんとにリアルにまちづくりを行っていく過程を、まざまざと見せていただいたような気がして、とても勉強させていただいたと思って、ありがたく思っております。

で、本日で総合計画できたんですけども、皆様もおっしゃっておられますように、これで出来上がったで終わりではなくて、これからどんなふうに運用していくか。それから委員の皆様もいろいろなところで参画をされる場面もあると思いますし、それから役所のほうのお仕事についても、是非ちゃんとやっているかなということ、見守るようなことも必要になってくるかと思しますので、よりよい寝屋川市を作っていくためにも、これからも委員の皆様のお力を注いでいただければというふうに考えております。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(会長)

はい。どうもありがとうございました。

この審議会の経過を振り返ってみますと、1月30日でしたかね。第1回の審議会から足かけ9か月間、非常にタイトなスケジュールだったと思います。御多用な時間の合間を縫って、本審議会に御出席賜りまして、また慎重御審議くださったこと、進行に御協力いただきましたことを、議長、議長と言

ますか、進行役といたしまして、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

この間見ました、地方制度調査会の6月の報告書を見ましたら、今までの地方制度調査会とはちょっと違ったカラーが出ているなど。どうもこれ、今の首相の、所信表明にもかなり大きな影響を与えたとは思っているんですけど、何が出ているかと言いますと、「自助・共助・公助」という言葉があそこで出てくるんですね。そこでいわれていることは、まさしく地域社会における住民自治の力を、今こそ振り絞らないと、西暦2040年から逆やったかな。40年から起算して考えてみると、もう行政の力も、税収は落ちていく、人口も停滞どころか減っていく、で、高齢者も横ばいで、ずっと高位水準のまま高齢社会が続く、そして稼得年齢層が縮んでいくと。こうなったらもう行政計画の時代ではもうない。つまり自治体全体の計画になっていくというような話が、もうここに書かれていたわけですね。その、どういうのかな。認識ということを何か見事にこの寝屋川の皆様方に、共有してくださっていたなあとあって、私はある意味で感銘しております。寝屋川の底力、ここに見たなという感じがして、今日は敬意を払いたいと思っております。

本当に皆さん、ありがとうございました。

それではこれをもちまして、第11回寝屋川市総合計画審議会を閉会とさせていただきます。皆さん、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

(全員)

ありがとうございました。